新編三葉之
金殺梅

馬琴作
国貞画

丹泉堂梓

曲亭馬琴作
香蝶樓國貞画
上帙上
天保甲午
孟春新版

A13
4454
5

清の阮葵生が茶餘客話に云狗を屠る者は狗を吠牛を解くものを牛と呼ぶ牛これを觸る夫狗と牛とは智慧ありけれども自然に等類の怨を知て或は吠或は觸る物類相感天理に出づ善惡報應類を知るべしとなり

浮屠家の五戒に殺生をもて第一義とす彼狗を屠り牛を解く者今生にして狗吠に遭ひ牛觸に遇ふとたとへ身後の應報なることを得んや然れども善を行ふて福なる者あり不善を做て禍なる者あり是故に世の人惑ふて動もすれば天を怨み善惡報應なしと思ふに亦その遲速とありて終に報ふを知ざるべ然ばなほ書に云ずや作善降之百祥作不善降之百殃とあるを應報の速なるを

以ての之又易經に云るを見れば積善家必有餘慶積不善家必有餘殃とあるを應報の遲なるをいふの之蓋善を做者はその身に于ては延年福壽児孫に在ては立身栄達血脈をもて相續ぎ又不善を做す者は其身に於ては短命横死子孫に在ては凋落廢絶他人代わりて家に入る世に人の父祖たる者身の為児孫の與を思ひ慮て不善を做すべからず善惡應報遲速あり近ければ必其身に報ひ遠ければ必児孫に報ふ歳月をへて論じ難かる應報の理を知まく思ひ童蒙先這金瓶梅を看るべし

天保五年甲午春正月吉日新板　曲亭馬琴真四角序

花子富む
嶽山
美盛
たれ
ちゑを
加郷
京師の
ちゑうと
茶戸

川やうろ
鳥居
琴柱の南
孝女
琴柱

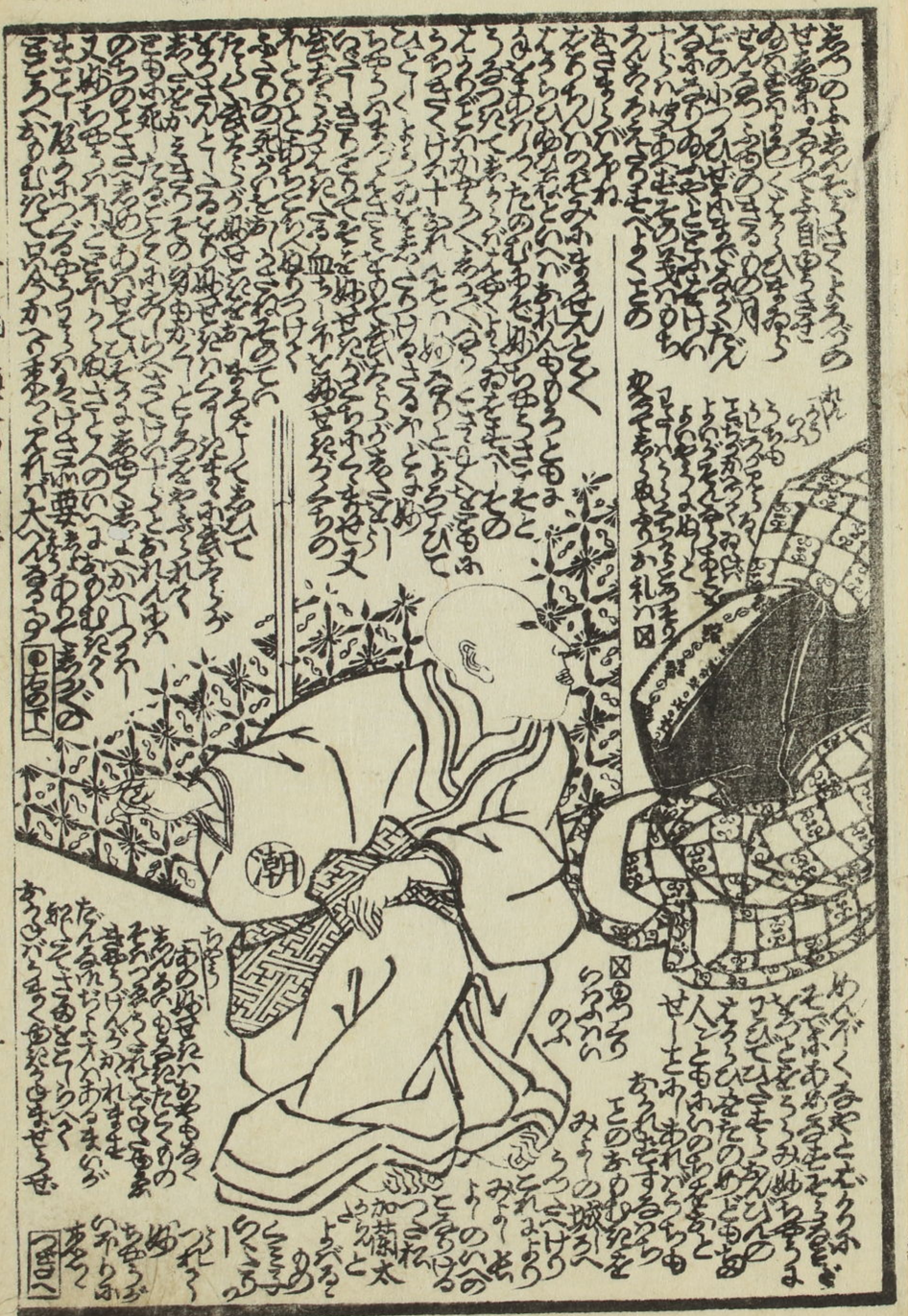
玄景
船舘幕左門
あてそろーえ
蛇蜕
花一樹あり
多金の
阿蓮

蛇加江
鳶藏
葛松
加蘭太
妙尼
潮僧

宿乃首尾
あり又け
舟そ
六くぶの條
絲柳
虚花屋
浮吉
きでゑみ
う郎

白波
宅太郎
巣百
瓶子

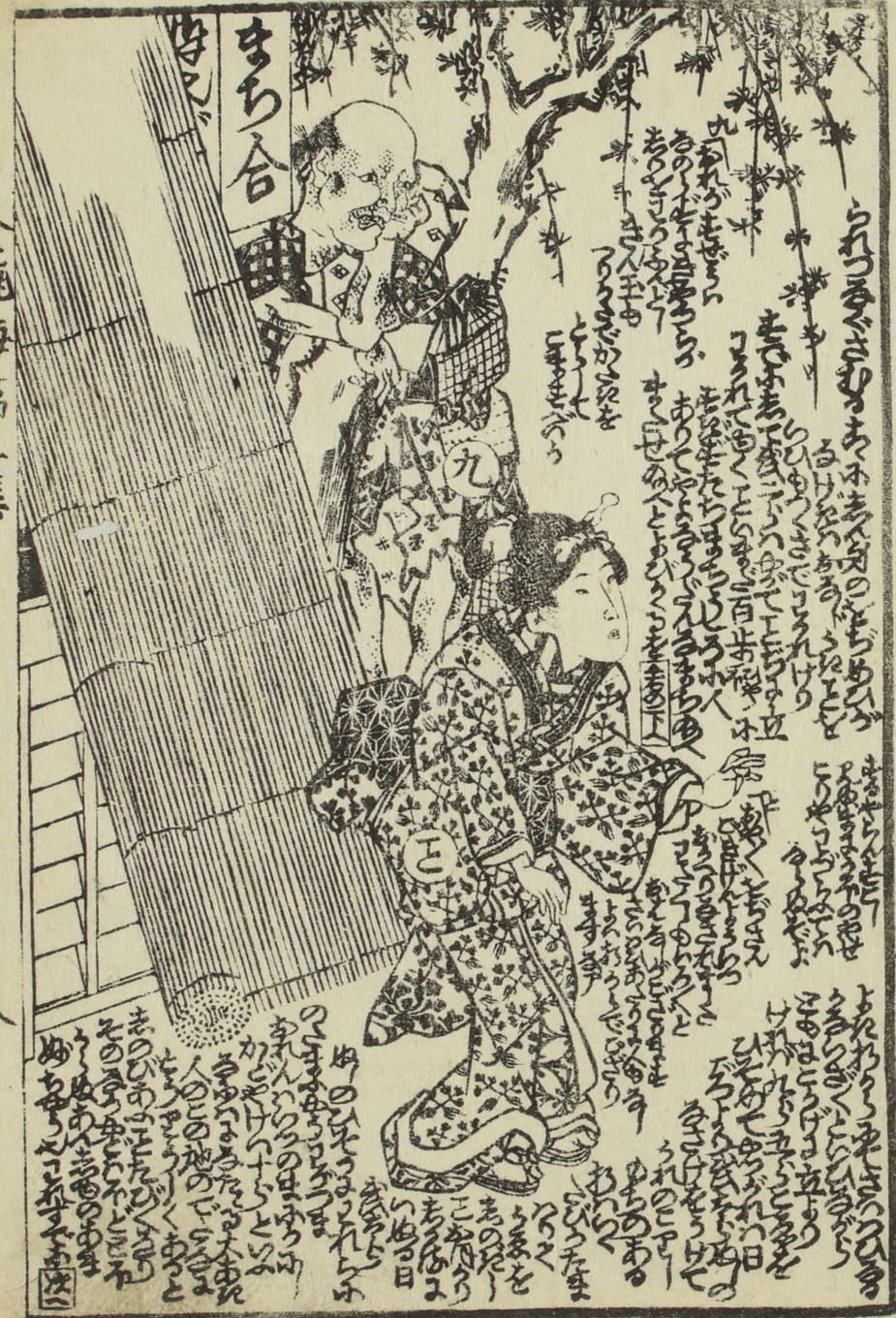
蓮


潮

弥陀仏
蓮

松

松


きち合
九
と

松

潮
加

九

和漢駿足 繪本高麗嶽 北尾重政筆 名馬畫

花鳥寫真圖會 同 画 極彩色

繪本ぬぢ袴 柳川筆 極彩色

漬物早指南 八百治主人著 初編全一冊

餅菓子手製集 初編

手造酒法 後編

女手中祝事始 小本 全一冊

女用文藝詞

女今川千代友鶴

雛形小倉百人一首

源氏かるた 極彩色 壱八

同 雛かるた 壱八

書肆 甘泉堂藏板

新編金瓶梅第二集

上帙

芝神明前
甘泉堂板

新編

金瓶梅第三集二

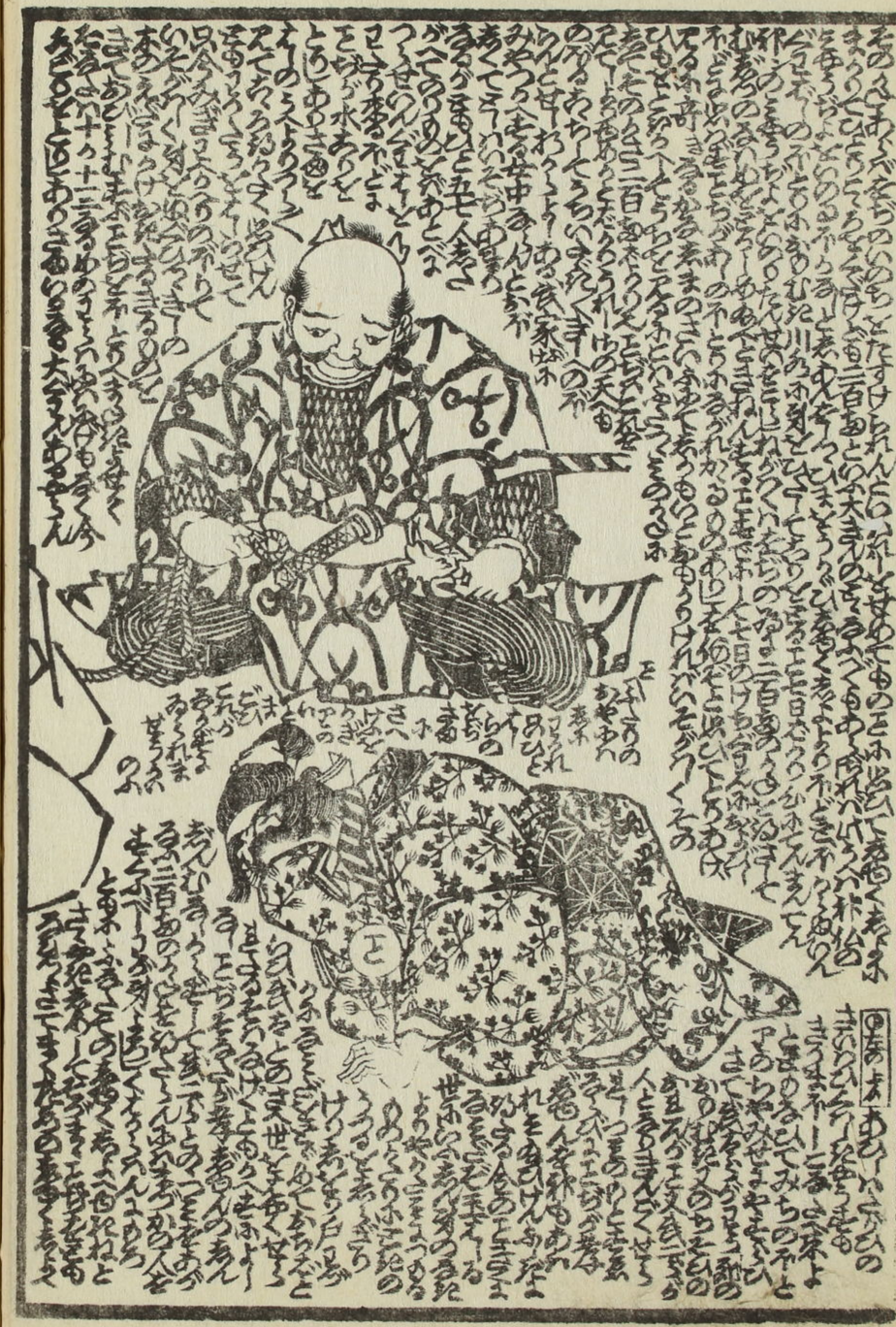
馬琴作

国貞画

天保甲午孟陽出

和泉屋市兵衛梓

ぎうめ
くれ



蓮
飛

九
稽

家傳神女湯 婦人諸病の妙薬 一包代百文

精製奇應丸 大包代弐朱 中包代壱朱 小包代五十文

熊胆黒丸子 一包代弐朱

製薬本家 神田明神下 瀧澤氏

弘所 元鍛冶町中坂下南側よりの高 九沢沢

浄書 金川

書肆甘泉堂藏版略目録

新編金瓶梅 五編 曲亭馬琴作 六編 香蝶楼國貞画

金色羅紗利生纜 九編 曲亭馬琴作 八冊 歌川國芳画

夜雨燈 白猿作 重表忠臣蔵 三篇揃 五渡亭國貞画

春榮百人一首大全 大本 一冊

常盤百人一首 中本 一冊

麗玉百人一首 小本 一冊

御かるのぶれい 美艶仙女香 坂本氏製

風俗伊勢物語 東理山人作 六篇出來 七篇 貞秀画

源氏繪盡 渓齋英泉画 中本一冊

書物地本問屋 芝神明前 三島田 甘泉堂和泉屋市兵衛

特別
へ13
4454
5